

■いつしか訪れる「お別れ」に備えるとは

一般に自分自身の死について具体的に想像しておられる方は少ないと思います。死後行われる葬儀の知識については、経験上ある程度予測できており、イメージを描くことができる高齢者は多いと思います。しかし、遺品整理についてはまったく見当がつかないという人が多くいます。「誰が自分の遺品を片付けてくれるのか」「息子たちや兄弟に負担をかけたくない」ということを高齢者は気にかけているのです。

最近では葬儀の形や金額など自分の意思で決めておきたいと生前に申し込みを済ませておく方も増えてきました。遺品整理についても同じようなお気持ちがあり、事前の相談のお電話が増えております。

私は、そのために遺品整理についての希望が記入できる項目の入ったエンディングノートを作って無料で希望者に配布しています。自分の意思を持って最後の終わり方を遺族に伝えることができるので喜んで頂いております。

■旅立つ者としては「誰が遺品整理するのか」「どう遺品整理するのか」「さえきっちりしていれば心配はないということでしょうか」

自分が死んだ後に、できるだけ周りに迷惑をかけずに、きれいに自身の最期を終えることができるかということは重要だと思えます。火葬されても自分の荷物が残っているうちは終わったことにはならないのですね。天国に行く途中で自宅を眺めたとき、いつまでも自分の遺品が残っているとまわりに迷惑をかけるのではないかとずっと気にしてしまっ。そんな方々に対して、我々は後ろを振り向かず天国へ行っていただくお手伝いをさせてもらっていると思っております。この役目をキーパーズに頼んであるから安心だと思っておられる方も多いですよ。

また遺族においては、亡くなった方への追悼の気持ちは心に残すべきです。遺品整理や相続手続きについてはいかに手離れよくするかということが大事です。それが、残された人たちの生活に大きく影響することになるからです。

■しかし遺品を処分する判断はなかなかできないですよ

そうですね。しかもその時々によって捨てるか否かの判断が変わってしまつわけです。自分で遺品を捨てることになる自分責任が発生します。場合によっては周りから「なんで捨てたのか」と責められる可能性があるわけです。だから、誰かが判断のお手伝いをしなければならぬと思うのです。

## 迷惑をかけずに きれいに最期を終える ことができるか

また、最近中高齢者の孤独死が社会問題になっています。私達はこの孤独死を防ぐことも大切な役目だと思っております。

いずれにしても一度自分の死について考えてみることは大切なことだと思えますよ。

■ありがとうございました

キーパーズ株式会社 代表取締役

# 吉田太一

よしだ・たいち

1994年 大阪市淀川にて吉田運送創業  
2002年 名古屋市にキーパーズ設立  
2007年 遺品整理ご依頼件数7000件超える  
著書に「遺品整理屋は見た!」2006年扶桑社

